

まるもり 議会だより

Miyagi Prefecture
Marumori Town Assembly
News

第267号



2024. MAY
令和6年5月1日

発行 宮城県丸森町議会
編集 議会広報常任委員会



丸森橋が選奨土木遺産に認定！記念碑を設置

(表紙のことは……28ページ)

3月議会

- 伊具高校生とまちづくりを考えました… 2ページ
- 完全無償化で子育て支援 …… 4ページ
- 合併70年 先を見据えた取り組みは …… 6ページ
- 一般質問 12人の議員が町政を問う …… 14ページ



まあるい森の里からごんにちわ

グループワークで出した意見を紹介します

サブテーマ①

将来、地元に住むには何が必要だと思いますか

産婦人科など
病院があると
安心



誰もが優しくで
きるしあわせな
町だといいな



阿武隈急行線の
料金を安くして、
本数を増やして
便利に！



子どもが風邪を
ひいたときに預
かってくれる施
設があるといい



近くにコンビニ
があるまちは
便利で暮らし
やすい



交通機関が
便利なまち
だと住み
やすい



街灯がしっかり
設置されている
まちは安心でき
るよね



大きなドラック
ストアがあると
便利だね

自分たちにもできること

令和5年度 3年1組
佐藤 李華さん

各班の発表を聞き、自分たちで出来ることが、まだまだあることに気付きました。私たちの出した意見、アイデアが実行されるように議会で話し合い、政策に役立てて欲しいです。

丸森町のことを考え、色々な意見に触れる機会を頂き、とても有意義な時間となりました。

サブテーマ②

地域のために、あなたができることは何ですか

子どもを
産んで
育てる！



ゴミ拾いを
してまちを
きれいに
する



野菜を
育てて
販売する



ちゃんと
選挙に
行って投票
する



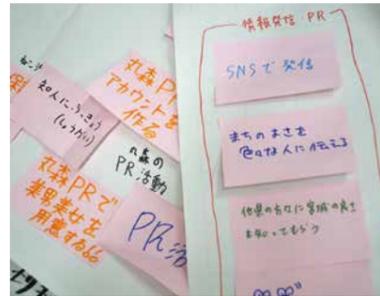
美男美女で
丸森の良い
ところをPR
する！



議会懇談会 開催のお知らせ

議会懇談会は、議会の報告及び町民と議員が意見交換を行う大切な場として開催しています。
令和6年度第1回目の懇談会は、羽出庭農村集落多目的センターと、各まちづくりセンターを会場に開催します。皆さまの参加をお待ちしています。

日 時	場 所
5月23日(木) 午後7時~9時	筆甫まちづくりセンター
	小齋まちづくりセンター
	大張まちづくりセンター
5月24日(金) 午後7時~9時	丸森まちづくりセンター
	大内まちづくりセンター
	耕野まちづくりセンター
5月27日(月) 午後7時~9時	金山まちづくりセンター
	館矢間まちづくりセンター
	羽出庭農村集落多目的センター



若者がSNSで地元の魅力を発信など提言

伊具高校生と

まちづくりを考えました

令和5年度2回目の議会懇談会は、2月14日に伊具高校生3年生46人とワークショップを開催しました。「住みたい町を創るワークショップ」と題して「自分が住みたいまちは、どんなまち」をメインテーマに、2つのサブテーマを話し合いながら、自分の意見や思いを書き出し、各グループの意見として模造紙に書き込み、発表しました。

地元に住むためには、遊ぶ場所や飲食店、公共交通機関の充実が必要という意見や、子育て環境の整備などの意見がでました。また、地域のためにできることとして、選挙に行き投票する、SNSで地元の魅力発信という意見や、野菜を育てて販売するという伊具高校生ならではの意見もありました。伊具高校生の皆さんから出された様々な意見は、今後のまちづくりに反映できるように、議会も努力していきます。伊具高校生の皆さん、ご協力ありがとうございました。

完全無償化で子育て支援

3月議会のあらまし

3月議会定例会は、3月4日から18日まで開催しました。

主な議決内容

- ◆令和6年度各種会計予算
- ◆条例の廃止 1件
(第2子以降児童の保育料等助成条例)
- ◆条例の一部改正 7件
(介護保険条例の一部改正、キャンプ場の設置及び管理条例の一部改正 ほか)
- ◆財産の無償貸付 2件
(旧筆甫中学校、旧筆甫保育所)
- ◆一般会計他6会計の補正予算
- ◆人権擁護委員の推薦

審議の結果、町長提案の議案等を、すべて原案どおり可決しました。

一般質問は12人の議員が行い、自らの考えを交え町長や教育長と活発な議論を行いました。

最終日には、6年度各種会計予算をすべて可決し、各種会計予算に関する要望事項を議員発議で町長に提出しました。

また、議員発議で「除染廃棄物仮置場等に関する調査特別委員会」を設置しました。
(詳細は13ページ)

議決結果の一覧はホームページに掲載しています。



令和6年度予算は

一般会計予算

108億3000万円
5年度と比較して13億1700万円、10・8%の減となりました。

特別会計予算

国民健康保険特別会計他4つの特別会計予算総額
41億8320万円

企業会計予算

病院事業会計 27億4712万円
水道事業会計 6億650万円
下水道事業会計 17億7745万円
※予算額は収益的支出及び資本的支出の合計額(10ページに詳細があります。)

保育料と副食費を無償化へ2831万円

保育施設を利用する町内の子どもにかかる保育料及び副食費について、すべて無償化するための予算です。

これまでは保護者が保育料等を一度施設へ納付し、同額を町が助成していましたが、完全無償化により保護者の負担軽減を図ります。



副食費も完全無償化に (丸森たんぼぼこども園)

水防センターの整備に6256万円

河川防災ステーションの敷地内に水防センターを整備するための予算です。

令和6年度中に水防センターの基本設計及び実施設計を行うとともに、防災拠点としての機能、災害伝承・

防災教育機能、にぎわい拠点としての機能について具体的な検討を行います。

また、7年度の工事着手、8年度の運用開始を目指し、整備を進めていきます。



令和8年度の運用開始を目指し、造成工事中の河川防災ステーション

八雄館建て替え準備に6788万円

度重なる地震により被害を受けた八雄館(中心市街地活性化拠点施設)の建て替え準備のための予算です。

令和6年度に地質調査、新築工事設計、解体工事を行い、7年度に新築工事、8年度にオープン予定です。なお、工事中は同じ敷地内にて仮店舗で営業を続けます。



重要な観光拠点のひとつである八雄館

百々石公園の再整備に2457万円

百々石公園を観光の新たなコンテンツとして再整備するための予算です。

令和6年度から7年度にかけて、公園入口や第2広場の展望台、園路の整備を行います。低山トレッキングも取り入れながら、河川防災ステーション等とも連携し、まちなかの観光拠点としての活用も進めます。



新たな観光資源として再整備を進める百々石公園

空き家の利活用促進に640万円

空き家の再生、家財道具等の処分・清掃、空き家の解体を支援するための予算です。

これまでの空き家の再生、家財道具等の処分・清掃に加え、令和6年度からは空き家を解体した後に土地の売却や賃貸をするなど、土地を活用する場合に補助する内容を追加しました。



利活用が期待される空き家

合併70年 先を見据えた取り組みは

予算案に関連した総括質疑の中から取り上げました

70周年記念行事予定は

問 令和6年度、町村合併70周年を迎える。イベント等の開催の考えは。

答 12月1日で70周年を迎える。記念式典を行い、記念誌を発行する。
また、様々な記念行事が各課で検討されており、町全体で盛り上げていきたい。

次期総合計画の方針は

問 まちづくりの基本指針となる次期総合計画策定に向けて、どのような観点で取り組むのか。

答 人口減少を大きな課題と捉え、移住定住の促進や関係人口の増加等に力を入れることで、若い世代に期待感を持ってもらえる計画となるよう努める。



町内8地区の特色などを盛り込んだ、町政70周年記念ロゴマーク

介護人材確保の対策は

問 介護人材を確保するために、新たな対策を考えているのか。

答 現在の介護資格の取得費用に対する補助金だけでは、十分でないと考えている。令和6年度から始まる第9期介護保険事業計画で検討したい。

婚活支援の施策は

問 結婚対策の事業はこれまで行ってきたが、実績が少ない状況である。今後、どう進めていくのか。

答 令和5年度のアンケートでは、婚活ではなく自然に出会いたいと回答があった。6年度は趣味や興味があるテーマで、集まりやすく交流しやすいイベントを開催する。



「おやつをどうぞ」優しく声をかける介助職員

阿武隈急行線の存続は

問 厳しい経営状況である阿武隈急行線に1億円以上の予算を組んでいるが、今後の見通しは。

答 利用客数の減少に歯止めがかからない現状だが、地域公共交通計画に基づいて、運賃助成等のPR活動に力を入れ、存続に向けた収益増加に努める。

企業誘致と雇用創出は

問 企業誘致や人材確保は、とても重要になると思うが、どのように考えているか。

答 企業立地奨励金や雇用奨励金の制度を整備し、企業に働きかけているが、人材の確保が課題である。
ホームページへの求人情報の掲載や企業ガイダンスを継続していく。



存続へ正念場、明日への夢と感謝を運ぶ我が阿武隈急行線

農業の担い手育成対策は

問 農家や集落営農の担い手不足が深刻化している。技術指導を含め、今後、農業法人をどのように育成するのか。

答 集落営農法人へ定期的な訪問し、様々な課題について指導している。今後、園芸作物の拡大を図り、各関係機関との連携を強化し対応していく。

中心市街地施設再整備は

問 観光の中心地にある八雄館は、どのように再整備を進めていくのか。

答 度重なる地震による耐震問題があり、現店舗を取り壊して新店舗を建設する。工事期間は仮店舗で営業を継続する。
中心市街地の拠点として、観光の活性化を目指す。



いちご栽培に取り組む農事組合法人(羽山の里佐野 大内地区)

検証

新年度予算

予算審査特別委員会

会期中4日間にわたり、町長、副町長、教育長及び担当課長等の出席を求め、令和6年度の予算審査を行いました。質疑の一部を要約してお知らせします。

未給水地域への支援は

問 水道未給水地域での水不足への対応をどうするか。

答 まちづくりセンターの協力のもと、町内公共施設の水道水の開放等を行うとともに、井戸掘削や給水施設の設置等に対する費用の2分の1、最大100万円を補助する。

行政区再編をどうするか

問 地域人口増減に伴う行政区再編の見通しは。

答 令和7年度が行政運営推進委員の改選時期のため、令和6年12月には条例改正を行う計画で、再編検討委員会にて詳細を検討している。

神明住宅入居者への支援は

問 住民の新たなコミュニティ形成のための支援をどのようにしていくのか。

答 住宅会がつくられており、運営などのアドバイスを発行していく。また、社会福祉協議会によるサロン活動で住民同士の交流を深める。

ひきこもり支援は

問 ひきこもりの現状はどうか。また、支援をどのようにしていくのか。

答 15歳から64歳までの51人が、社会との関わりを6か月以上断っており、様々な悩みを抱えている。家族の協力も得ながら、居場所づくりに取り組んでいく。



旧大張小学校で給水した水を自宅に運搬

通学路の安全対策は

問 丸森小学校と館矢間小学校の通学路安全対策は。

答 丸森小学校東側の菱川内線と館矢間小学校東側の

赤崎線に歩道を設置する。完了予定は菱川内線が令和7年度で赤崎線は8年度である。

住民の足確保対策は

問 あし丸くんを利用しやすいものにするためにどのようなしていくのか。

答 AI（人工知能）の導入でドアからドアへ、タクシー感覚で使ってもらえるよう利便性の向上を図っていく。

また、狭い道も通行できるように、車両の見直しも検討する。

竹谷仮置場の撤去は

問 除染土の移設について、上滝仮置場と館矢間仮置場への移転の期間はいつからいつまでか。

答 竹谷地区の水田基盤整備事業に伴う仮置場の撤去作業は、令和6年5月から始まり9月に終了する予定である。



通学路歩道総延長1560メートル（赤崎線 館矢間地区）

丸森小学校体育館工事は

問 工事の期間はどのくらいか、この間の体育館での授業はどのように行うのか。

答 令和6年9月頃に発注

し、工期は約5か月を予定している。工事中は、丸森中学校と体育館の使用を調整している。



改修工事を行う丸森小学校体育館



神明サロンで住民同士の交流を支援

まちづくりへの要望

所管事務調査、予算審査を通じ、各常任委員会から出された要望事項を取りまとめ、議会として9項目を町長に要望しました。

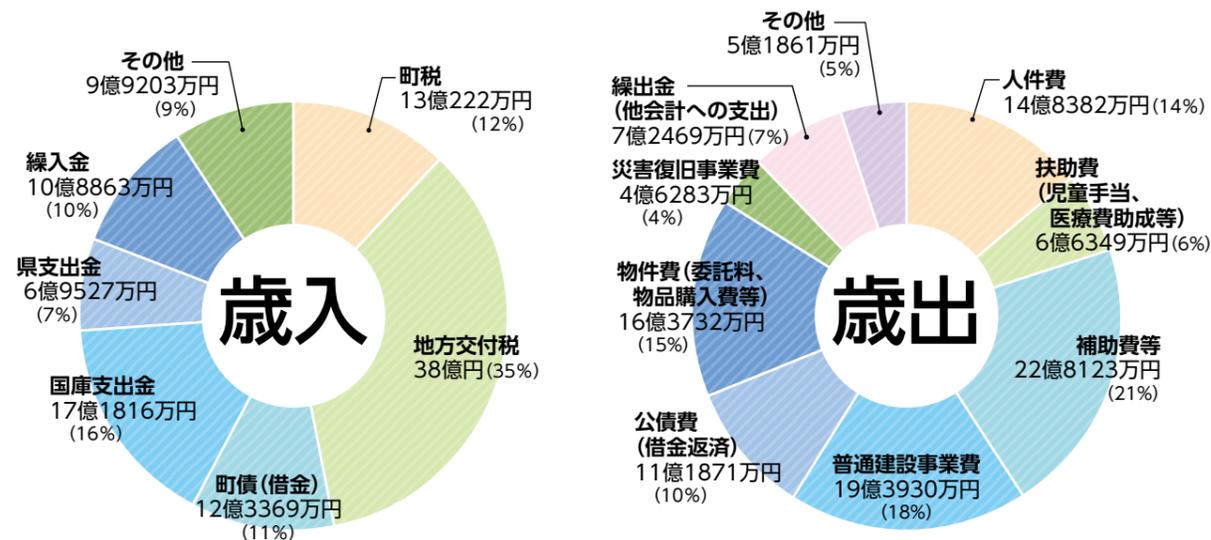


端午の節句でにぎわう齋理屋敷

観光交流の場
最大限に活用を

令和6年度 予算を認定

一般会計予算は108億3000万円



各種会計 当初予算の比較 (支出)

会計名	令和6年度	令和5年度	伸び率
一般会計	108億3000万円	121億4700万円	▲10.8%
特別会計			
国民健康保険	18億1510万円	17億3290万円	4.7%
後期高齢者医療	2億430万円	1億9160万円	6.6%
介護保険	19億9880万円	20億5220万円	▲2.6%
宅地造成事業	30万円	160万円	▲81.3%
工場団地造成事業	1億6470万円	8570万円	92.2%
小計	41億8320万円	40億6400万円	2.9%
計	150億1320万円	162億1100万円	▲7.4%

病院事業会計			
収益的支出	13億8644万円	12億9321万円	7.2%
資本的支出	13億6068万円	2億245万円	572.1%
水道事業会計			
収益的支出	3億9537万円	3億9925万円	▲1.0%
資本的支出	2億1113万円	1億7993万円	17.3%
下水道事業会計			
収益的支出	4億2947万円	3億9495万円	8.7%
資本的支出	13億4798万円	12億4818万円	8.0%

※収益的支出とは、人件費や材料費など業務運営に係る支出。
※資本的支出とは、工事費や過去の建設工事のために借り入れたお金の返済など財産に係る支出。

- ◆ 観光振興計画に基づき齋理屋敷及び八雄館を核として、特色と魅力ある中心市街地の整備を推進し、地域活性化を図ること。
- ◆ 地域住民の生命財産を守るため、女性も含めた消防団員の確保に努め、防災・減災を図ること。
- ◆ デマンドタクシーは、特に山間地域と町中心部をつなぐ重要な交通手段である。利用者のニーズに合った公共交通整備に努めること。
- ◆ 水道未給水区域の水の枯渇は深刻な問題である。関係各課の連携した対策で町民の生活を支えること。
- ◆ 人口減少対策として、子育てのしやすい環境や移住しやすい環境を創出し、オール丸森で取り組むこと。
- ◆ 集落営農や新規就農者等の担い手支援の強化と、災害復旧工事完了後の農家経営の安定化に取り組み、持続可能な農業振興を図ること。
- ◆ 災害復旧に全力で取り組むと共に、復旧後の町民生活の安全確保のため、工事車両通行による道路損傷の調査と修繕を進めること。
- ◆ 不登校児童生徒の実情を踏まえ、保護者や関係機関と協力しながら学校復帰に向けた支援と学びの場の充実に努めること。
- ◆ 税・使用料及びふるさと納税は貴重な自主財源である。積極的な情報発信と共に、収納対策に努めること。

条例の一部改正

消防団員の定年延長を可能に

現在、消防団は町内45班体制で活動を行っています。が、新たな入団者がおらず機能維持が困難になってきている班もあります。消防団員数を確保して消

防力の維持を図るため、基本団員の定年を65歳から70歳まで延長できるように条例を改正しました。
なお、各団員の定年は、機能別団員が75歳、正副団長、正副分団長、ラッパ隊正副隊長は定年はありません。



住民の防災を支える消防団員（令和4年秋季消防訓練）

介護保険料を改正

第9期介護保険事業計画（令和6年度から8年度）の策定により、介護保険料の一部を見直す条例改正を行いました。
保険料の段階を第9段階から第13段階まで細分化し、第9段階以上の高所得者の

保険料額を引き上げ、第1段階から第3段階までの低所得者の保険料額を引き下げること、低所得者の保険料負担の抑制を図ります。
なお、改正後の保険料の段階は、前年度の所得が確定した8月以降に通知されます。



DVDで体操したり、介護施設で今日も楽しく過ごしましょう

令和6年度介護保険料	段階	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年額		2万2224円	3万7824円	5万3424円	7万2000円	7万8000円	9万3600円	10万1400円	11万7000円	13万2600円	14万8200円	16万3800円	17万9400円	18万7200円

町有財産を無償貸付

旧筆甫保育所をカフェや子どもの遊び場として活用

貸付する財産
旧筆甫保育所の土地・建物
(筆甫字石神西4番地3)

貸付の相手方
一般社団法人
ひっぱのみらい
代表理事 中村 真悟
(筆甫字和田井45番地)

貸付の理由
筆甫地区振興計画に定められている、宿泊や体験交流事業等の地域振興事業を実施するもので、筆甫地区の持続可能な地域づくりを目的としているため、無償で貸し付けます。
貸付の期間
令和6年4月1日から11年3月31日まで（5年間）



交流の場や宿泊施設として活用される旧筆甫保育所

主な事業内容

保育所跡地という利点を活かし、家族連れが交流できる遊び場などのフリースペースを設置するとともに、カフェや宿泊設備、キャンプスペースも確保された施設となる予定です。

旧筆甫中学校を今後もデイサービス等で活用

貸付する財産
旧筆甫中学校の土地・建物
(筆甫字和田73番地)

貸付の相手方
特定非営利活動法人
そのつ森
代表理事 太田 茂樹
(筆甫字細田103番地13)

貸付の理由

高齢者福祉事業や生産活動事業等を実施するとともに、小学校の長期休業期間の見守り事業も実施しており、公共性が高いことから

無償で貸し付けます。

貸付の期間

令和6年4月1日から11年3月31日まで（5年間）

主な事業内容

地域密着型のデイサービスやいきいき元氣クラブの実施により、地域の高齢者が元気に暮らすサポートを行うとともに、小学校の長期休業時の児童クラブ運営など、引き続き地域に密着しながら、活動を続けていきます。

人権擁護委員の推薦

人権擁護委員5人のうちの1人が、令和6年6月30日で任期満了となるため、候補者を法務大臣に推薦するもので、全会一致で賛成しました。

人権擁護委員候補者

川村 賢司 さん

仮置場等に関する調査特別委員会を設置

除染廃棄物仮置場等に関する調査を行うため「除染廃棄物仮置場等に関する調査特別委員会」を議員発議で設置しました。
委員会は議長を除く13人の議員で構成し、委員長は金森裕之議員、副委員長は板橋勇議員です。



国の実証実験が終了した上滝仮置場



わたなべ まさみ 議員
渡辺 政巳



一般質問動画

自由に学べる学校を

町長 開設の必要はないと考える

問① イエナプランは一人ひとりの違いや個性を尊重し、社会で自立しながらも他者と共存できる人物を育てていくことを目指す教育の考え方である。これを採用している学校法人茂来学園大日向小中学校では、誰もが豊かに、そして幸せに生きることのできる世界をつくるを建学の精神とし、1年生から3年生、4年生から6年生が同グループになり、自由に勉強している。

答① 教育基本法では、国及び地方公共団体は義務教育の機会を保障し、その水準を確保するため、適切な役割分担と相互協力のもと、その実施に責任を負うこととされている。学習指導要領が基準であり、逸脱することはできないことから、議員提案のような学校を開設する必要はないと考える。

本町においても不登校が増えるなか、自由に勉強できる学校を開校すべきではないか。

問② まちづくりの指針に生涯学習を掲げるべきではないか。

答② 生涯学習の視点でお答えする。

町民が自主的に学び、生



イエナプランを採用している大日向小学校（長野県）

一般質問

町政を問う

一般質問とは、町に対して事務の執行状況や将来に向けての考えをたずねるものです。今回は12人の議員が質問しました。

ページ	議員	質問事項と回答
15	渡辺 政巳	●自由に学べる学校を 町長 開設の必要はないと考える
16	鈴木 美智子	●公共交通環境の充実は 町長 利便性向上と利用促進を図る
17	板橋 勇	●限界集落への対策は 町長 各部門が連携し対応
18	中津川 かおり	●商観業発展と人口増加策は 町長 6年度に対策を進める
19	八巻 眞由	●産後ケア事業の改善を 町長 利用しやすい環境をつくる
20	山本 明德	●ジェンダー平等の町を 町長 多様な生き方を尊重
21	石井 央	●人口減少と地域力対策は 町長 次期総合計画で指針を示す
22	船山 俊一	●まちなかの景観整備は 町長 計画的に整備を推進する
23	金森 裕之	●防災能力の向上を 町長 水防施設の充実を図る
24	大槻 孝雄	●空き家への移住対策は 町長 サポートセンターを強化
25	大槻 正儀	●国際交流で町の活路を 町長 体制整備には取り組む
26	菊池 修一	●危機管理のあり方は 町長 環境の変化に対応する





いたばし 板橋 議員



一般質問動画

限界集落への対策は

町長 各部門が連携し対応

平成26年5月、民間組織の日本創成会議が、国立社会保障・人口問題研究所の人口データを詳しく分析して、地方消滅という衝撃的なレポートを発表した。896の自治体が消滅可能性都市とされ、仙南7町のうち5町が該当し、当然、本町も含まれた。以来、消滅可能性都市、限界集落という言葉が大きな話題になり、各自治体が対策をとってきたが、人口減少に歯止めがかかっていない現状である。

直近では、令和5年7月に民間組織の人口戦略会議が設立され、令和6年5月頃には消滅可能性都市の再推計を行い、分析結果も公表される予定だ。これらのことを踏まえ、限界集落対策について問う。

問①自治体の安定度や崩壊度を測る物差しに「存続集落・準限界集落・限界集落・消滅集落」の4段階があるが、本町には限界集落はいくつあるのか。
答①令和6年1月現在で98行政区中43の行政区が該当する。

問②限界集落が多い本町は地域再生に向けて、どう取り組むのか。
答②地域における暮らしを支えるため、各地区住民自治組織への支援を行ってきたが、令和4年度からは、集落支援員を配置し、地域の見守りと課題の洗い出しを行い、課題解決につながる活動を支援している。

また、地域おこし協力隊の活用やボランティア等との関係人口づくりを行っている。



地域づくりを積極的に進める活動を学んだ、集落支援員視察研修会 (令和6年3月 大崎市)

公共交通環境の充実は

町長 利便性向上と利用促進を図る

問①A-1活用で試験運行中の、あし丸くんのメリットとデメリットはどんな点か。利用者の声を反映させた利便性の向上に、どう取り組むのか。
答①予約状況等で最適な経路を判断した効率的な運行で、車両を6台から4台に減らし年間約1000万円の経費削減を見込んでいる。デメリットは、意図しない配車の発生や、予約件数により時間通りに送迎できないことが考えられる。原因分析を行い早急な改善に務め、関係者と十分に協議して体制を整備する。



AIシステムを操作するあし丸くん予約センター

問②町外に通院する際のタクシーと介護タクシー料金は町内でも経済的負担になっており、補助を提案するがどうか。
答②金額の上限や介護度を定め補助している自治体があり実施できるのではないかと、町外への高齢者の移動手段の確保は今後の課題で

問③阿武隈急行線はなくてはどうか。
答③通勤や通学など生活に欠かせない移動手段であり、広域的な人と物の交流促進を図るうえでも重要なインフラである。町民から存続を求める声が大きく、私も存続を強く望む一人である。ふるさと納税の項目の新設とガバメントクラウドファンディング※での寄附募集も検討して順次実施する。

問④阿武隈急行線で校外学習や遠足に行くことも、ふるさと教育ではないか。
答④教育長 郷土理解に大きく貢献する。令和5年度は延べ132人が利用しており、6年度も探求学習や遠足等で利用を検討する。

※ガバメントクラウドファンディングとは
地方自治体が寄附金の具体的な使い道を示し、共感した人から資金を募る仕組みのこと。



すずき みちこ 議員



一般質問動画

問②町外に通院する際のタクシーと介護タクシー料金は町内でも経済的負担になっており、補助を提案するがどうか。
答②金額の上限や介護度を定め補助している自治体があり実施できるのではないかと、町外への高齢者の移動手段の確保は今後の課題で

あり、通院支援について近隣市町や全国の先進的な取り組みを参考に検討する。

問③阿武隈急行線はなくてはどうか。
答③通勤や通学など生活に欠かせない移動手段であり、広域的な人と物の交流促進を図るうえでも重要なインフラである。町民から存続を求める声が大きく、私も存続を強く望む一人である。ふるさと納税の項目の新設とガバメントクラウドファンディング※での寄附募集も検討して順次実施する。



やまき まゆ 議員
八巻 眞由 議員



一般質問動画

産後ケア事業の改善を

町長 利用しやすい環境をつくる

妊娠中から産後数か月は、心身のバランスを崩しやすい時期である。また、出産後の悩みや孤立からもたらされる育児不安は、第2子以降の出生行動や虐待問題にも関わっているという指摘もある。安心して産み育てられる子育て環境の充実を目指し、産後ケア事業の改善と拡充について町長の考えを問う。

問①令和5年度の利用者数は少なく、また現在の制度では利用が難しいとの声もある。申請手続きの簡素化や、居宅訪問型の導入、産後ケアとしての利用も見据

えたWARRASKOグループの内容改善、また町独自の産後ケアサービスと情報周知が必要ではないか。
答①県が中心となり検討している県内の医師会や助産師会を通じた集合契約が導入されると、産後ケアの利用者が県内の医療機関から自分のニーズに合うものを選択することや、里帰り出産時の利用も可能となる。また手続きの簡素化やデジタルを活用した申請、認知拡大に向けた周知方法についても引き続き研究し、利用しやすい産後ケア事業となるよう取り組む。

問②根本的な問題は、産後ケアを担える事業体が町内や近隣に無いことである。現在産後ケアを実施している事業所が今後も事業を継続するとは限らない。本町の産後ケアを担う人材を町で育てる新たな取り組みとして、地域おこし協力隊

による助産師の募集や、産後ドゥーラ※養成講座受講

商観業発展と人口増加策は

町長 6年度に対策を進める

町の活性化には、商観業の発展と人口の維持が必須と考える。定量的な目標と今後の方針を町長に問う。

問①町外からの来訪客を年間何人見込んでいるのか。また、どのような客層をイメージしているのか。

答①令和6年の観光客数の目標値を60万人に設定し、町内外問わず幅広い年齢層に来訪してほしいと考える。

問②海外への広告や外国人誘致の施策を取るべきではないか。外国語案内板や外国語を話せる人材の確保はどのように考えているか。



なか がわ
中津川かおり 議員



一般質問動画

答②英語表記を追記した観光案内看板のリニューアルに加え、英語、中国語、タイ語に対応した観光パンフレットを作成している。外国人対応の人材確保や育成は、急を要する状況ではないと考えるが、商工事

業者への講習会実施や地域おこし協力隊制度による人材確保等は、状況を見ながら判断していきたい。
問③空き店舗を町主導で整備し、新規事業希望者へのお試し店舗として貸し出す

ことはできないか。
答③町の財政負担が懸念されるため、令和6年度に策定予定の空家等対策計画と国の支援事業の条件等を勘案し、研究していきたい。
問④目標としている出生数は何人程度か。
答④令和6年度の出生数は45人程度が目標である。

問⑤どのような層の移住者をどの程度見込んでいるか。
答⑤若者や子育て世代の移住・定住の強化が町の人口減少をゆるやかにすると考えている。令和6年度の移住者数の目標は30人である。

問⑥空き家を町主導で整備し、短期滞在型の賃貸物件にすることで、移住のための足掛かりにはできないか。
答⑥空家等対策計画の策定に取り組み、国が示す条件等を勘案しながら、本町に適した空き家の活用策を検討していく。



古民家の囲炉裏を楽しむ外国人観光客（まるもりホテル 筆甫地区）

移行し、より子育てしやすい環境づくりに努める。

※産後ドゥーラとは
産前産後の母親の心身の安定と産後の身体の回復のため、家庭を訪問して育児や家事等のサポートを行う。



内装や備品にもこだわり産後の母子が安心して過ごせるよう整えられている産後ケア専用ルーム（スズキ記念病院 岩沼市）



いしひさし 石井 議員



一般質問動画

人口減少と地域力対策は

町長 次期総合計画で指針を示す

町政史上最悪の台風被害から、国や県と関係者の支援で着実に前進した復旧・復興計画が令和6年度に最終年を迎える。復興ビジョンに掲げた「共に立ち上がる次代につなぐ新たな丸森づくり」を検証して町の将来に伝承し、次期総合計画策定に反映することが重要と考え町長に問う。

問① 発災後、人口減少が高い割合で進行し、地域力低下が危惧される。現状認識と次期総合計画の構想は。
答① 町の人口は発災年と令和5年12月末において1381人減少の1万1911人

問② 大災害による被災者を含む、多くの町民の経済状況は厳しい。意欲のある町民へ働く場の提供が重要である。町民経済の活性化対策が必要ではないか。
答② 町民生活や経済活動は厳しい状況にあると認識している。

問③ 令和5年12月22日開催の、官民共創次世代リーダー育成研修提案発表会における事業、実施提案は素晴らしい内容だった。実現に向けた取り組みはあるか。
答③ 研修は、町職員と企業次世代リーダー候補者が地域社会を題材に課題を設定し、その解決策の創出まで取り組むもので、23人の参加者が4チームに分かれ



実現に向け具体的な提案がされた、官民共創次世代リーダー育成研修提案発表会

ジェンダー平等の町を

町長 多様な生き方を尊重

日本は男女平等社会のようでありながら、賃金や仕事の面で男女の格差が大きく、ジェンダーギャップ指数は146か国中、125位である。
男女が共に尊重し合うとともに、他者と違う生き方をしている人も、地域の中で孤立することなく暮らせるようなまちづくりが大切と考え、男女共同参画、ジェンダー平等という観点から、町長と教育長に問う。

問① 町は男女共同参画推進のために、今後どのようなことに力を入れていくのか。
答① 子育て世代を対象に、

町独自の計画については、現在策定中の次期総合計画を、男女共同参画の視点に配慮して推進していく。
問② LGBTQ※の方々は、8〜10%いるという調査結果もある。パートナーシップ制度の導入で、多様な生き方を尊重する町を宣言し、同性婚や夫婦別姓を望む方も安心して暮らせるまちづくりを進めてはどうか。
答② 多様化する個々の生き方や暮らし方を尊重していきたいと考えるが、法律婚とは違い、諸権利が認められていない現状である。国の動向等を含め、調査研究していく。

問③ ジェンダー平等について、学校教育でどのように進めるのか。
答③ 教育長性の多様性についての理解を深めるため、蔵書等を増やしたり、児童生徒への指導を行うよう学校へ指示する考えであるが、大事なものは、教職員の意識を高めていくことである。

※LGBTQとは
レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー・クエスチョニング。自分の性別と異なる性を自認したり、性的指向が定まらない性的少数者の総称。



あきのり 山本 議員



一般質問動画



男女共同参画推進ポスター (内閣府ホームページ)



かなもり ひろゆき 議員
金森 裕之



一般質問動画

防災能力の向上を

町長 水防施設の充実を図る

町は、令和元年東日本台風の被害を受け、国や県によるハード事業が進められ、令和6年度は復旧・復興計画の最終年度である。復興のシンボルとして工事が進められている河川防災ステーションや、町全体の防災について町長に問う。

問① 町が整備を進める水防センターは、令和8年度の利用開始とされている。平常時には観光交流や防災学習の場として活用されるが、非常時に関して具体的な対応が示されていない。施設の災害発生時の対応は。

答① 水害時には水防団や、

問② 消防団員の減少が続いている。今後、地域の防災力の低下が懸念されることから、確保対策を更に強化するべきではないか。

また、組織体制の見直しやアンケートの実施を行うべきと考えるがどうか。

答② 令和5年度から導入した機能別消防団により、充足率は96%となった。しかし、一部の班では団員の確保が進まず、今後の活動に支障が出るのが予想される。定年延長を可能とする条例改正や班編成の見直し等の組織再編を進め、アンケートの実施も検討する。

問③ 近年では、森林・林業に対する関心が高まっている。このような状況から、将来を生きる子どもたちへ



本町から1人が参加した全国女性消防操法大会（令和5年10月 東京都）

まちなかの景観整備は

町長 計画的に整備を推進する

丸森町観光振興計画の重点プロジェクトである、斎理屋敷及びその周辺の景観整備等の推進は、地域活性化に向け、計画性とスピード感を持って進めなければならぬと考える。今後の取り組みについて、町長の見解を問う。

問① 斎理屋敷前の通りについて県は、道路空間をにぎわい創出等に活用できる制度である「ほこみち」に指定する方向で検討を進めている。

そこで、斎理屋敷を核とした、町中心部における景観整備等の事業推進に向け、



にぎわいづくりに向け整備を検討（斎理屋敷周辺商店街）

県との連携を図りながら、どのような取り組みを進めていくのか。

答① 観光振興計画に基づき、斎理屋敷前県道の町道化や無電柱化、車歩道境界ブ

ロックの撤去のほか、住宅や店舗等の景観配慮型改修の推進、斎理屋敷の中庭再整備等に取り組みなど、中心市街地の活性化を目指して、整備を行う予定である。

問② たんぼぼこども園に隣接する町民広場の公園と百々石公園の整備に、今後どう取り組むのか。

答② 2つの公園については、町民も観光客も訪れる、町内の観光資源等をつなぐ公園として、子どもから大人まで、安全、安心に楽しく遊ぶことができる施設として整備していく。

問③ 町中心部には、老朽化が進み放置された危険な空き家がある。景観や風景を阻害し、地域住民の生活環境にも深刻な影響を及ぼす。早急に手順を踏んで、解体すべきではないか。

答③ 令和6年度から、新たに空き家の解体に対する補助を加えた事業を開始する。今後は、地域住民が安心して生活できる環境を守るとともに、本町を訪れた観光客等が、快適な街歩きを楽しめるよう、景観整備に努めていく。

ふなやま しゅんいち 議員
船山 俊一



一般質問動画



おおつき まさよし 議員
大槻 正儀



一般質問動画

国際交流で町の活路を

町長 体制整備には取り組む

本町の国際交流事業は、米国へメット市との親善交流を主とした姉妹都市交流と、アフリカザンビア共和国との農業技術普及を主とした交流があげられる。ヘメット市とは中学生の相互訪問やALTの招へいを行い、視野拡大や英語力向上などの成果を上げた。ザンビア共和国とは、土壌改良や養蜂の普及、農産加工など成果がでていますが、東日本台風やコロナ感染拡大などで一時休止していた。今後の国際交流事業のあり方について質問と提案をする。

問① 本町は少子高齢化や社会人口減などの課題に加え、農業の衰退など、多くの課題が山積しているが、これまでの行政政策では解決できない状況にある。解決策として東南アジア諸国との「ひと・もの・かね」の国際交流により、町の将来展望を開く考えはあるか。
答① 現在のところ東南アジア諸国を含む新たな国や地域との交流を開始する考えはない。今後さらに国際化や多文化共生の流れが進む中で、国際交流を行うための体制整備や多文化共生の推進に取り組む。

問② 外国人技能実習制度のもとに町にも多くの技能実習生が外国人登録をしており、これまで町は、宿泊施設の提供など、受け入れを支援してきた実績がある。今後、外国人育成就労制度に変わると、就労条件の良い都市部への流出も懸念されるが、町は支援策の充



ベトナムからの技能実習生も参加して楽しんだ桜を観る会（大張地区）

空き家への移住対策は

町長 サポートセンターを強化

町政懇談会や議会懇談会において、度々、空き家対策が取り上げられたがあまり効果が感じられない。移住定住サポートセンターによれば、移住相談が57件、空き家相談が172件あり、空き家への移住需要は高いとみる。いかに早く家主と移住者のマッチングを行うということが重要であり、移住につながる事がポイントになると考え、町長に問う。

問① 町が行った空き家調査はどのような内容か。空き家への移住推進策はあるのか。



子どもがのびのびと過ごせる広い空き家に移住（大張地区）

答① 空き家等実態調査を行い4分類に区分し、空家台帳や空家分布図等を作成した。令和6年度中に空家等対策計画を策定するとともに、特定空家が出ないよう

に取り組む。また、サポートセンターの活動を強化し、移住定住の推進を図り「じゅーぴたっ通信」により町民に周知する。

問② 国立社会保障・人口問題研究所によると、2050年の町人口は5000人弱と推計され、人口減少率は県内ワースト1位である。26年後の人口動向を見ると、本町存続において最大の危機と捉えている。これを考察すると、人口減少に伴い行政運営においては、すべてを縮小、再編せざるを得ないと考える。このような人口減少をどのように捉え、次期総合計画に取り入れ、「ときめく未来へ」の町づくりをどう進めていくのか。
答② 数値は台風災害による人口減少率が大いことに加え、今後の国や自治体による施策の成果見込が反映されていない数値であるが、参考となるデータである。新たな総合計画策定にあたっては地域に合ったまちづくりの在り方について検討し、住みたいまち、町民が住み続けたいまちづくりを目指していく。



おおつき たかお 議員
大槻 孝雄



一般質問動画



きくち しゅういち 議員 菊池 修一



一般質問動画

危機管理のあり方は

町長 環境の変化に対応する

問①本町は4年半前に発生した東日本台風で甚大な被害を受けた。
また、新型コロナウイルスによる感染拡大で緊急事態宣言の発令などがあり、予期せぬ災害から住民の安全、安心を守ることは最優先課題である。
防災、減災の観点から今後の危機管理のあり方を町長に問う。

答①災害から教訓として得たことは、町政に悪影響を与える要因を平時の段階から洗い出し、事態の発生を未然に防ぐとともに、危機的な状況に陥らないよう、事前の対策を立てるリスク



災害などに備え救命講習を受ける自主防災組織（館矢間地区）

マネジメントが大切ということである。
しかし、想定を上回る事態の発生は否定できないため、地域防災計画等の策定で満足せず、環境の変化に

応じて計画を深化させる。それとともに、緊急事態発生時には影響を最小限にとどめ、危機的状況から早期回復を図るクライシスマネジメントを心掛ける。

非常事態に備え、職員間の問題意識と情報の共有を図り、有効な対策を速やかに実施していくことが大切であると考える。

問②町が抱える最大の危機感が高齢化と少子化を背景とした人口減少問題であることは、誰もが心配するところである。
全国的な社会問題として考えた場合、隣接する自治体との連携や協力が重要であると考えるがどうか。
答②人口減少に伴い、特に地方においては行政サービスの維持が危惧されている。人口減少地域における住民への効率的で効果的なサービス提供を確保する手段として、広域計画的な視点に立った取り組みについて、更に議論を深めていかなければならないと考える。

役場の仕事を

千エツク

2つの常任委員会で、所管する課に属する事務に関し、テーマを決めて聞き取りや現地調査を行いました。

総務民生 常任委員会

この調査に注目

◆町民税務課
「未給水区域の水不足の現状と対策」

◆委員長コメント
「水不足への支援と対策を」

未給水区域での水不足は深刻である。町施設の水道開放や耕野振興会での支援事業、令和6年度からは町の補助金を増額する等対応しているが、今後も支援を続け水不足の不安解消に努めて欲しい。

他の調査項目

- ◆総務課・保健福祉課
指定避難所の備蓄品等の管理状況
- ◆企画財政課
新たなデマンド交通システム事業の内容

他の調査項目

- ◆子育て定住推進課
空き校舎等利活用の検討状況と各地区の活用事例
- ◆子育て定住推進課
まるとり移住・定住サポートセンターの実績と移住支援

産建教育 常任委員会

この調査に注目

◆建設課、災害復旧対策室
「令和元年東日本台風で被害を受けた道路の復旧状況」

◆委員長コメント
「災害復旧後も最善の維持管理を」
災害復旧工事が完了した林道鈴宇線は、丸森町と新地町をつなぐ道路であり、113号線が土砂崩れで通行止めとなつた際には迂回路としても利用されている。今後も最善の維持管理を望む。

他の調査項目

- ◆建設課・災害復旧対策室
水道事業の運営状況と地区別収支
- ◆商工観光課
コロナ禍以前と現在の指定管理者での運営比較
- ◆農林課・農業委員会
耕作放棄地の現状と対策
- ◆生涯学習課
農産物の振興と加工支援
- ◆学校教育課
不登校児童生徒数の推移とその理由



お風呂と洗濯室を無料開放している ころたけハウス（耕野まちづくりセンターとなり）



災害復旧が完了した林道鈴宇線（大内地区）



空き家利活用で町活性化を

筆甫地区

ゲストハウス経営
中村 真悟 さん

地域おこし協力隊として3年間の任務を終え、現在は一般社団法人ひっぽのみらいを設立し、新たな取り組みに挑戦している中村さん取材しました。

Q 筆甫地区に移住した理由を教えてください。

A 以前からゲストハウスをやっていたという思いがあり地域おこし協力隊に応募し、筆甫地区を選びました。

Q 現在の活動について伺います。

A 古民家を改装し、誰でも気軽に宿泊できるゲストハウスまるもりホテルを経営しています。その他、消防団活動や地域のイベントなどにも積極的に参加しています。

Q 筆甫地区に住んでみて感じたことはありますか。

A 豊かな自然の中で、自由に活動できるのがいいですね。

また、地域の方々が優しく接してくれるので毎日が楽しいです。

Q 今後の目標を教えてください。

A 旧筆甫保育所を改装し、新たな交流施設をオープンする予定です。日頃から情報発信し、インバウンドにも力を入れて丸森町を盛り上げていきたいと考えています。

Q 町や議会に意見はありますか。

A 空き家の利活用や、移住・定住の受け入れ体制など観光につながる整備を進めていただきたいと思っています。

(金森 裕之 委員)

スマホで議会が見られます

本会議の映像をネットで
ライブ中継しています

●一般質問は過去の録画映像を常に視聴できます。ぜひ議会だよりと一緒にご覧ください。



丸森町議会中継

検索

次の議会は

6月12日(水)
午前10時 開会予定

●日程が変更になる場合があります。後日、町議会ホームページで、改めてお知らせします。



問い合わせ先
議会事務局 ☎0224-72-3038

お詫びと訂正
議会だより第266号(6頁)において、選挙管理委員の記事に誤りがありました。正しくは、職務代理者は佐久間正美さんです。謹んでお詫び申し上げます。

表紙のこぼれ

別名「モダン橋」として親しまれてきた丸森橋が、令和4年度選奨土木遺産に認定されました。

選奨土木遺産とは、顕彰を通じて、歴史的土木構造物の保存を目的に選ばれるもので、この度の選定に際して丸森橋のたもとに記念碑が設置されました。

伊達冠石を使用した記念碑の足元にはQRコードが印字されており、丸森橋の歴史等を詳しく解説したページにアクセスできます。戦前の昭和4年に建造されたプラットトラス道路橋として県内で唯一現存している丸森橋。

記念碑を通じて、さらに多くの方々へ、その魅力が伝わることを願います。

(八巻 真由 委員)

議会広報常任委員会

委員長	鈴木美智子
副委員長	山本 明德
委員	八巻 真由
	中津川かおり
	大槻 孝雄
	金森 裕之